

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価 (3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>① 新学習指導要領と生徒ニーズにかなう教育課程の編成と継続的な見直しを図る。</p> <p>・ICT 利活用を進め、主体的で個別的な学習支援を行う。</p> <p>・目指す生徒像の実現のため、教科横断での授業改善を進め、必要なスキルの定着を図る。</p> <p>②行事運営を主体的な学びの場に位置付け実施する。</p>	<p>①-1 生徒の進路実現や本校の将来像を見通し、新たに編成した教育課程の実践を通じて、教育活動の充実を図る。</p> <p>①-2 組織的な授業研究・授業改善をさらに充実させ、週末課題や授業内での指導方法を研究し、より効果的な学習活動の実践を行う。</p> <p>②学校行事を生徒が主体的に行えるように支援し、リーダーとしての資質の育成と企画力・自主性・自律性の向上を図る。</p>	<p>①-1 教科、グループ横断的な研究を重ね、移行期も含めた教育課程の課題を整理し、実践につなげる。</p> <p>①-2 「授業力向上推進重点校」として研究主題を設定し、学力向上チャレンジプランの見直しと上南指導メソッドの考案に向けた取組を行う。</p> <p>②学校行事において各組織のリーダー生徒と連携を密に取り、適切な支援をする。</p>	<p>①-1 課題を的確に捉えて研究を行い、新しい教育課程の特長を生かした実践を行うことができたか。また、進路希望の実現につながる選択指導を行うことができたか。</p> <p>①-2 生徒による授業評価で、主題に関する項目の肯定的回答割合90%以上、学習時間アンケートで家庭学習に関する項目の数値及び内容が改善したか。</p> <p>②行事等の企画段階から生徒がリーダーシップを十分に発揮できる組織と支援体制ができたか。</p>	<p>①-1 教育課程ワキガグループを中心に、教科・1学年との連携を図り、課題の整理、教育活動の実践、進路実現につながる選択指導を行うことができた。</p> <p>①-2 「自ら学ぶ態度を育み、学力の定着を図る上南指導メソッド」を研究主題として、組織的な授業研究・授業改善を行い、成果をあげることができた。「第2回生徒による授業評価」において、主題に関する項目1・3・6の肯定的な割合はほぼ90%となった。</p> <p>②実行委員を中心に様々な工夫をし、行事等を実施することができた。また、上南祭実行委員会が、県教育委員会表彰を受賞した。</p>	<p>①-1 令和4年度入学生の進路実現に向けて、引き続き研究を重ね、実践につなげる。また、令和5年度入学生の教育活動において教育活動のさらなる充実を図る。</p> <p>①-2 「生徒による授業評価」の学習アンケートにおいて、家庭学習時間が短くなっている傾向が見られた。家庭学習については実態を踏まえた研究が必要である。引き続き、「授業力向上推進重点校」としての取組を充実させる。</p> <p>②今後も生徒の企画力・自主性の向上が図れるように、教員が前面に出すぎないように配慮しながら支援を継続する。</p>	<p>①-1 特になし</p> <p>①-2 教員が対面で行う授業と映像授業を組み合わせたハイブリッドな授業により、学習効果を上げてほしい。</p> <p>生徒による授業評価で90%の肯定的な評価を得られたことは一定の成果があったといえる。</p> <p>年間目標に「週末課題の指導方法の研究」とあるが、家庭学習時間が短くなっている傾向が見られることで、成果が発揮されていないようなので、授業と家庭学習との一体化についての工夫が必要である。</p> <p>②特になし</p>	<p>①-1 令和4年度入学生の2年次の選択指導を中心に、充実した教育活動の実践を行った。今後さらに、新しい教育課程の特長を生かした教育課程編成案を完成させる。</p> <p>①-2 ICTの効果的な活用を含めた組織的な授業研究・授業改善の充実を図ることにより、学習効果を上げることができた。今後は、授業と家庭学習の一体化について研究を進める。</p> <p>②実行委員や生徒会が様々な工夫をし、リーダーシップを発揮し、多くの行事を開催することができた。今後も状況に応じた対応がとれるようにする。</p>	<p>①-1 教科、グループ、学年横断的な研究を進め、課題を解決する。</p> <p>①-2 「授業力向上推進重点校」2年目の取組として「上南指導メソッド」を策定し実践する。また、新たに導入するClassiを活用した週末課題の実施方法を研究し、家庭学習に関する課題を解決する。生徒による授業評価や学力試験の結果により成果を確認する。</p> <p>②自ら実行委員や生徒会がリーダーシップを取り、多くの生徒が自主的に参加できるように支援を継続していく。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>① 個別支援の視点から支援体制を構築する。</p> <p>・生徒の成長と変容につながる交通安全指導を推進する。</p> <p>②部活動の一層の推進と目標を明示し主体的に取り組む指導を推進する。</p>	<p>①-1 個別支援を充実させるための取組を組織的に実施する。</p> <p>①-2 交通安全指導の更なる充実を図り、生徒の意識の向上に結び付ける。</p> <p>②部活動入部率・成果の向上を図り、部活動を主体的な学習の機会として捉え、人間性・社会性を伸ばし、挑戦する力を育む。</p>	<p>①-1 職員研修により職員のスキルアップを図ることで、生徒の微細な変化に気づく力と対応力を醸成するとともに、外部機関を効果的に活用することで、個別支援を更に充実させる。</p> <p>①-2 通常の注意啓発指導に加えて、臨時の状況に応じた指導を行い、交通事故の減少に結び付ける。</p> <p>②生徒会オリエンテーションや部活動見学を効果的に実施し、入部率を高め、部活動連絡ボード等を有効に活用し、部活動の活性化を図る。</p>	<p>①-1 個別支援の視点から組織的な生徒支援が機能したか。[職員アンケート肯定的評価90%以上]</p> <p>①-2 交通事故件数が減少したか。[交通事故件数15件以下]交通安全への意識が向上したか。[生徒アンケート肯定的評価80%以上]</p> <p>②部活動入部率や大会での成果等が向上したか。</p>	<p>①-1 個別支援の必要な生徒に対する組織的な支援について、肯定的評価を100%の職員から得ることができ、目標を達成することができた。</p> <p>①-2 交通事故は27件発生し、残念ながら昨年度比12件増となった。交通安全意識については、87%の生徒、100%の職員から肯定的評価を得た。</p> <p>②部活動入部率は、82%と昨年度比で1ポイント高めることができた。また、昨年度より多くの部が関東大会への出場を果たすことができた。部活動の活性化に繋がった。</p>	<p>①-1 引き続き、組織的な研修と継続的な情報交換を適切に実施するとともに、支援の必要な生徒に対しては、ケース会議を含め、確実に支援していく体制をさらに構築する。</p> <p>①-2 日々の注意喚起をさらに積極的に実施するとともに、スクアードストレイト式交通安全教室を是非とも実施し、交通安全に対する意識啓発を行う。</p> <p>②今後も継続して部活動の活性化を図り、入部率や成果の向上を図る。</p>	<p>①-1 個別支援の必要な生徒に対する組織的な支援について、職員の100%から肯定的評価を得られたことは、高く評価できる。</p> <p>①-2 地域の警察署からは「斜め横断が多い」と聞いているため、指導の必要性を感じる。</p> <p>②部活動加入率の向上や関東大会出場など部活動の活性化は高く評価できる。上溝南高校の大きな特色として外部へアピールすることで、生徒の自己充実感や活動意欲の向上につながると思う。</p>	<p>①-1 個別支援の視点から組織としての支援体制を構築することができた。今後はさらにこの体制を維持、改善するとともに、外部機関の効果的な活用を進める。</p> <p>①-2 交通事故件数が倍増し、指導目標を達成することができなかった。来年度はヘルメット着用努力義務化を追い風に、様々な場面で、交通安全指導を積極的に行う。</p> <p>②生徒が主体的に活動し、各部活動が効果的な練習を行うことで成果を上げることができた。今後も部活動の活動状況を生徒・保護者・地域に効果的に発信ができるよう支援していく。</p>	<p>①-1 来年度より週1日配置されるSCとSSWを効果的に活用するとともに、職員研修の充実を図り、個別支援体制の拡充に結び付ける。</p> <p>①-2 スクアードストレイト式交通安全教室を実施し、注意を促すとともに、HRや集会を最大限活用し、交通安全啓発活動を行う。</p> <p>②年度当初の生徒会行事を通して入部率を高め、部活動連絡ボードの有効活用等で活動意欲を高め、さらなる部活動の活性化を図る。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月27日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①3年間で俯瞰した指導プランを策定し、確かな学力の向上と生徒一人ひとりの可能性を広げ・高め、進路実現を図る。 ②進路指導の職員研修等を充実し、目標を明確にした学習・進路指導を推進する。	①生徒一人ひとりが自らの進路を具体的にイメージし、計画・実現できるように、キャリアに関する情報を効果的に提供する。 ②外部資源等を活用し、効果的に職員・生徒に対し研修及びガイダンスを行う。	①-1 学年は自分・仕事探究、2学年は学部・学科探究、3学年は自らの計画を実行できるような効果的にガイダンス等を行う。 ②-1 多様化する受験制度や専門学校に関する研修を行い、職員と情報共有する。 ②-2 学習到達度テスト・模擬試験・スタディサプリを有効活用し、データを用いた進路指導を行う。	①ガイダンスや総合的な探究の時間を計画通り実施できたか。[生徒アンケート肯定的評価80%以上] ②-1 職員研修を実施できたか。 ②-2 生徒にとって外部資源が効果的であったか。[生徒アンケート肯定的評価80%以上]	①進路ガイダンスについては86%の生徒が肯定的評価をしている。総合的な探究の時間については1学年の肯定的評価が65%にとどまり、評価が相対的に低かった。他学年は80%を超える生徒が評価している。 ②-1 専門学校や公務員に関する研修等を実施することができた。 ②-2 各外部資源の肯定的評価については、スタディサプリ映像授業が71%、到達度テストが68%、模擬試験が70%という結果となり、いずれも目標を達成できなかった。	①1学年の総合的な探究の時間担当が経験の浅い職員で構成されていたため、効果的な指導計画を作成することができなかった。関係するグループと学年が、ねらいを明確に統一し、来年度は改善する。 ②-1 今後も継続して研修を企画する。 ②-2 外部資源の評価はどれも高くなく、映像授業の視聴については70%を超える生徒があまり活用していないことがアンケート結果よりわかった。職員研修を行い、生徒の意識を刺激できるよう改善を図る。	①「総合的な探究の時間」は基礎的な学習と関連付けられるのではないかと。地域の課題を理解していく中で、自ら基礎の復習に向かえる生徒が出てきてほしい。基礎的な学習との関連付けや意義を理解することが改善されると、生徒の質がより向上すると考える。 ②-1 特になし ②-2 外部資源を活用した学習がうまく実現していないのを残念に感じる。大学でも、高校までの学習習慣が表れるため、習慣付けを大切にしてほしい。学習に対する意義を生徒が理解した上で取り組めるようにしてほしい。	①進路ガイダンスについては、各学年が内容・時期ともに考慮し企画されており、生徒たちの意識の向上に成果があった。 「総合的な探究の時間」については様々な課題が残った。 ②-1 多様化する受験制度や専門学校に関する職員研修を行うことができた。ICTを活用した進路指導についてはさらに研修を積む。 ②-2 外部資源の有効な活用に関しては、大きく課題が残った。	①「総合的な探究の時間」はキャリアG、広報連携Gおよび学年の総合的な探究の時間担当者で連携し年間の取組を練り、生徒の育みたい力を学年で共有する。 ②-1,2 外部資源のツールを次年度はClassiに変更する。学務情報Gと連携し、学力向上チャレンジプランと絡めながら、生徒の主体的に学ぶ力を育むための有効活用方法を職員一体となって模索するとともに、研修を重ねていく。
4	地域等との協働	①学校運営協議会を活用し、すべての生徒が関われる地域活動を整備する。また、総合的な探究の時間等の課題解決学習に地域資源を活用し、地域との協働を推進する。	①-1 地域資源を、コロナ禍に対応した形で活用し、課題解決学習の支援体制を構築する。 ①-2 地域連携活動に対し、より多くの生徒が参加できる機会を作る。	①-1 オンラインの利用や、適切な感染防止対策を講じた上で、新しい形の社会連携体制を作る。 ①-2 本校生徒への広報活動については、既存のものだけでなく、オンラインでのPRや申込方法を立案する。	①-1 総合的な探究の時間等の課題解決型学習に、より多くの地域資源を活用できたか。 ①-2 前年度よりも地域連携活動に参加する生徒を増やすことができたか。[参加生徒数前年度比10%増加]	①-1 ホタル観察会、まちづくりワークショップ、バンダバンダまつりなどにおいて、感染対策を講じながら、地域と協働した取組を行うことができた。 ①-2 参加生徒数がホタル観察会では前年度比20%、バンダバンダまつりでは前年度比10%増加した。ホタル観察会では、地域連携実行委員の生徒が主体となり、新しい告知方法による効果があった。	①-1 来年度も継続的に地域住民や団体と協働し、生徒が課題解決型学習を通し、成長できる機会を創出する。 ①-2 一定数の参加者増となった一方で、全生徒に対する割合は十分でない。来年度は、地域連携活動の取組を、総合的な探究の時間に組み込むことで、地域連携実行委員以外の生徒にも浸透させる。	①-1 コロナ禍の中で、地域との協働事業ができたことは評価できる。まちづくりワークショップで、生徒が若者としての夢やビジョンを提案していて大変意義深いものがある。 ①-2 ただ単に参加するだけでなく、総合的な探究の時間につなげる仕組みができれば、参加する意義が理解されるだろう。	①-1 コロナ禍であっても、必要な対策を講じながら、より良い形に変化させ、外部資源を活用した地域連携活動を実施することができた。 ①-2 参加人数の増加を実現することができた。来年度は、総合的な探究の時間の中に地域連携活動の取組を組み込み、より身近なテーマを設定することにより、課題解決型学習に取り組む生徒を増やす。	①-1 これまでの活動だけでなく、総合的な探究の時間にも外部資源を活用し、生徒の課題解決型学習を支援する。 ①-2 地域連携活動の精選をはかる一方で、総合的な探究の時間において、地域連携活動の事前事後学習を実施することで、これまでよりも多くの生徒が身近な課題を考える機会を創出する。
5	学校管理 学校運営	①実効性を伴った防災計画を推進し、安全安心な学校づくりを進める。 ②業務改善の推進や学校内外の資源活用を通し、事故防止とともに、働き方改革を推進する。	①時代に合わせた安全安心な学校を目指し、環境美化活動や防災教育を活性化させ、生徒・職員の意識を向上させる。 ②-1 業務の効率化を推進し、勤務時間の有効活用を図る。 ②-2 不祥事防止会議を活用し、事故を未然に防止する。	①環境美化委員会による啓発活動を行い、防災に関する生徒アンケート等を実施して、日常的に安全安心な学校づくりを意識できる取組を計画する。 ②-1 昨年度の業務をゼロベースで見直し、効率化を図る。 ②-2 職員の意識の向上を図るため、不祥事防止会議の取組として、研修を実施する。	①計画的に環境美化活動や防災教育を行い、学校全体の意識を向上できたか。[生徒アンケート肯定的評価80%以上] ②-1 業務改善を3例以上実施したか。 ②-2 不祥事防止会議を年間10回以上、不祥事防止研修を年間10回以上実施できたか。	①大掃除での放送や、清掃状況の調査を行い、生徒の意識向上を図った。防災教育は抜き打ち訓練を新たに実施した。その結果、9割程度の肯定的評価を得た。 ②-1 保護者・生徒向け通知や会議資料のペーパーレス化を行った。生徒の欠席連絡をフォーム入力とした。勤務時間外の電話対応を原則廃止した。 ②-2 不祥事防止会議を年間15回、不祥事防止研修を15回行った。	①引き続き環境美化・防災への意識向上を図る。生徒・職員アンケートの内容を踏まえつつ、変化の激しい時代に合わせた学校の姿を模索し、生徒・職員が主体的に安全安心な学校づくりに参画できる仕組みの構築を目指す。 ②-1 働き方改革を図り、業務改善をさらに推進する。 ②-2 不祥事防止会議と、不祥事防止研修の内容を検討し、不祥事を未然に防止する。	①防災訓練は幼稚園からずっとやっているが、それらは決められた時間に行われているため、抜き打ち訓練は効果的だと感じる。生徒にフィードバックすることで、自分の行動を冷静に判断できるようになる役立つ訓練だと思うので、続けてほしい。 ②-1 生徒・保護者の理解と協力のもと業務改善を行い、働き方改革が進んだことは評価できるが、連絡不足や緊急時の対応にミスが無いように注意してほしい。 ②-2 特になし	①環境美化に対する生徒の意識は向上した。生徒の意欲に沿うよう、清掃用具の整備も進める。また、防災への意識も高い水準を保つとともに、非常時の生徒・職員の役割分担を明確にし、誰もが各自の判断で命を守る行動が取れるようにする。 ②-1 勤務時間外の電話対応を原則廃止したことで業務の効率化が進んだが、緊急時の対応を確実にすることが必要である。 ②-2 不祥事防止研修を実施したことで、同僚性が向上した。	①環境美化委員会による清掃用具の調査、清掃方法の紹介など、生徒が相互に働きかける取組を企画する。また、抜き打ち訓練を継続し、生徒・職員が自分の行動を振り返る機会を設け、実践的知識の定着を目指す。 ②-1 業務の効率化・簡素化をさらに推進し、前例に捉われずに改善を図る。 ②-2 不祥事防止研修会の内容を精査し、職員の意識を常に高く維持する。

